



帰りのあいさつ

子どもの頃、友達と遊んで別れる時は、「あばな！」とよく言ったものである。その意味合いは、「明日また会おう」というものであった。

日本人は、帰りのあいさつに「お疲れ様」という言葉をよく使う。「お疲れ様」を英語で直訳すると、「Thank you for your hard work」であると本に書かれていた。この言葉を掛けられると、疲れてもいないのに疲れているかのように錯覚してしまうと、ある大学教授が言っていた。

外国では「See you tomorrow」であり、「明日また会いましょう」という直訳になる。週末であれば、「よい週末を」などとなる。彼らにはあまり人の仕事を手助けする文化はなく、手助けされると、上司から能力がないと判断されると聞いたことがあり、帰りがけに「お疲れ様」と声を掛けられると、後ろめたさを感じてしまうのだという。

「お疲れ様」はもはや日本人の口癖のようになっており、帰宅する際も相手に気を遣っているように感じる。もっと気楽な言葉でストレスフリーに家路に着きたいものである。

人権

それは愛

インターネットの普及により、誰もが容易に情報を発信できるようになった反面、他者を傷つける言葉や攻撃が拡散しやすい環境が生まれました。誹謗中傷は被害者の精神的な苦痛を生み出し、社会的孤立や自殺に追い込むこともあります。

パリ2024オリンピック・パラリンピックにおいても、インターネット上の誹謗中傷が問題とされました。選手や審判に対し、悪口やでたらめを書き込みその名誉を傷付ける行為が多数見受けられました。その結果、JOC（日本オリンピック委員会）が緊急声明を発表する事態にまで発展しました。

このような行為に対して、日本を含め各国では法整備を進め、誹謗中傷に対する規制を強化していま

訪問購入にご注意を！ ～貴金属を強引に買い取られた～

「不用品を引き取る」と訪問や電話による勧誘が増えています。悪質な訪問購入業者は、強引に家に上がり物色した後に貴金属を強要し、安価での買い取りや盗み等を行います。家に上げず、その場ではっきり断るなどの対応が必要です。

事例1 突然、業者が来訪し、集めていた切手を2万円で買い取ってくれた。貴金属があるかと聞かれてアクセサリーを出したところ、目を離した際に持ち去られた。

事例2 電話で「要らない皿があれば貧しい国に寄付する」と言われ、来訪を了承し玄関に用意した。業者は、強引に家に上がり貴金属はないかと迫り、怖くなり渡した。クーリングオフをしたが大事な指輪は戻らない。

消費生活センターからのアドバイス

- 突然訪問した業者を家に入れてはいけません。訪問購入は、突然訪問することは禁止されています。また、勧誘前に業者名と買取対象物品の種類を伝えることが義務付けられています。
- 電話勧誘に疑問を感じたら電話を切りましょう。親切心に訴えるなど手口が巧妙です。また、一度断った業者の再勧誘は禁止されています。
- クーリングオフ期間中は物品の引き渡しを拒むことが可能です。売却した時は、必ず契約書面の交付を求め、改めて検討しましょう。

不審、不安があれば消費生活センターにご相談ください。

1人で悩まず すぐ相談！

消費者ホットライン 松伏町消費生活センター

188 局番なし 又は ☎984-7208

問合せ

教育文化振興課 ☎991-1873
企画財政課 ☎991-1815

す。しかし、法的対策だけでは問題を完全に解決することはできません。インターネット上の表現の自由を尊重しつつ、他者の権利や尊厳を守るためには、利用者一人ひとりが責任ある行動を取ることが求められます。

インターネットは便利で多くの利益をもたらす一方、その利用が人権侵害につながるリスクを常に伴います。この問題を解決するためには、法的な取り組みとともに、社会全体での意識改革が必要です。

埼玉県では、12月4日から10日までの期間を「人権尊重社会をめざす県民運動強調週間」として定めています。